

# 坂本公成 + 森裕子 Kosei SAKAMOTO + Yuko MORI (Monochrome Circus)

京都を拠点に活動続けるダンスカンパニー Monochrome Circusを率いる二人。「身体をめぐる／身体との対話」をテーマに国内外で活動を展開。代表作にgrafとのコラボレーション『TROPE』や、『HAIGAFURU ~ Ash is falling』などがある。また『掌編ダンス集』と銘打つ大小様々の作品群をレパートリーとしている。その他、コミュニティダンス、サイトスペシフィックな作品など、幅広く手がける。コンタクト・インプロヴィゼーションや身体に関するワークショップを、ダンサーはもちろん、大人から子ども、教育や福祉に関わる幅広い人々を対象に数多く行っている。

所属カンパニー Monochrome Circus

ホームページ <http://www.monochromecircus.com/>

連絡先(担当) 大藪もも

住所 〒603-8312 京都市北区紫野中柏野町22番20 紫野スタジオ内  
一般社団法人ダンスアンドエンバィロメント

電話・FAX 075-414-2425

E-mail [mc@monochromecircus.com](mailto:mc@monochromecircus.com)

在住地 京都市上京区

出身地 福岡県八女市(坂本) 滋賀県愛知郡(森)



Photo: 鹿島聖子

## 活動歴・受賞歴

### 活動歴

<2008~09年> 『坂本公成掌編ダンス集 国内ツアー』@アトリエ劇研(京都)、@本行寺(岡山)、@別府市中央公民館、@茅野市民館(長野)  
<2008~10年> 『Monster Project』@アトリエ劇研(京都)、@CND(Anagers)、@パリ日本文化会館(Paris)  
<2010年> 『オーケストラで踊ろう!!』@可見市文化創造センター、@大垣市民会館  
<2011~16年> 『TROPE』@VOICE GALLERY(京都)、@可見市文化創造センター、@P3artandenvironment(東京)  
<2015年> 『HAIGAFURU/Ash is falling』@京都芸術センター  
<2017年> 『T/IT:不寛容について』@京都芸術センター  
<2019年> 『FLOOD』@京都芸術センター

### 受賞歴

<1998年> 芸術祭典・京 造形部門“公募・京を創る”入選  
<2000年> “京都市若手芸術家奨励制度”奨励者に選出される(助成金300万円)  
<2001年> 横浜ダンスコレクション Solo\* Duoコンペティション ファイナリスト  
静岡振付コンクールファイナリスト  
<2002年> アジアン・カルチュラル・カウンシル(ACC)の助成を受けてNY研修  
<2008年> 京都市芸術新人賞受賞

### ワークショップ歴

<2000~19年> 京都国際ダンスワークショップフェスティバルにてコンタクト・インプロヴィゼーション、キッズ&アダルト、ピギナー・クラスなどを指導 主催: Dance & Environment+京都芸術センター

<2006年> 「トヨタ・子どもとアーティストの出会いin愛知 @瀬戸市立掛川小学校」全校生徒(19名)とパフォーマンスを創作 主催: 子どもとアーティストの出会い  
<2007~15年> Contact Improvisation Meeting in Japan(CIM)にてコンタクトのベーシック・クラス、創作クラスを担当 主催: Dance & Environment  
<2009年> 『混浴温泉世界-ダンサーを探せ!!』地元の人と商店街でダンスを展開。主催: 別府プロジェクト  
<2009年> 『オーケストラで踊ろう!!』可見市・大垣市の6歳から80歳までの市民150名がオーケストラの生演奏で踊るという企画の演出・振付 主催: 可見・大垣オーケストラで踊ろう事業実行委員会  
<2012年> TOYOTAにて感性開拓講座でエンジニア向けに指導  
その他、大学、役者向けのWS、子供向けのWSなど多数経験有り。

## 可能なワークショップ等のスタイル

### アウトリーチ・公募ワークショップ共通

#### ①ふれあうことから

他者と触れ合う中で生まれる動きを通じて、身体のセンセーション、相互の身体をリスペクトすること、いかにコミュニケーションをとっていかかということに焦点をあてています。

#### ②子どもとおとなワークショップ

コンタクト・インプロヴィゼーションを生かしながら、子どもとおとなの身体の違いを相互にリスペクトしながら、ともに身体を動かしダンスを経験する楽しいワークショップです。

#### ◎実施条件(共通)

▶参加人数: ①30名以内、②20名以内 ▶1日の実施可能回数・時間: 2コマ程度 ※1コマ120分  
▶必要機材: 音響設備(CDプレーヤー、スピーカー)  
▶対象: どなたでも

## この事業で可能な公演スタイル

### レパートリー作品

#### ①『きざはし』(デュオ)

150本のナイフ、テーブルの上と下の男女。意図しうかが意図しまいが人が2名存在するだけで互いに傷つけ合っている。▶上演時間: 25分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト)

#### ②『lost』(ソロ)

LED照明を使ったインスタレーション的作品。7m×7mのオープンスペースならばどこでも上演できるようになっている。▶上演時間: 25分 ▶出演者数: 1名(登録アーティスト(森)) ▶同行スタッフ: 照明1名 ※照明機材持ち込み。

#### ③『Endless』

3.11以降の価値観の変動とゆらぎを、ダンスを通じて見つめなおす坂本+森デュエット作品。▶上演時間: 20分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト) ▶音楽: 山中透(元dumb Type)

#### ④『TSUBUTE』(デュオ)

詩人の和合亮一氏の『詩の礫』を題材にした二人の渾身の最新作品。▶上演時間: 25分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト)

### 市民参加作品

#### ①『夏の庭』(デュオ)

雷の音、ヒグラシの鳴き声。夏という季節はなぜかはかなく、切なく感じられる。▶上演時間: 18分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト)+10~15名

#### ②『それから六千五百年地球は眠っているだろう』

三好達治のテキストを元に、震災の記憶と核の問題を扱った市民参加型作品。▶上演時間: 35分 ▶出演者: 2名(登録アーティスト(森)+共演者)+8名(ワークショップ参加者)

#### ③『FLOOD』

「FLOOD」は洪水、大水、氾濫、激しい流出、充満、殺到、上げ潮などを意味する。否応無しに「群れ」であること、またはその「分断」を意識せざるを得ない現代にあって、コンタクト・インプロヴィゼーションを軸に様々な身体を持つ15名のパフォーマーによる集団即興を展開。▶上演時間: 55分 ▶出演者: 2名(登録アーティスト(森)+共演者)+13名

#### ◎実施条件(共通)

プロジェクト展開地域の実情を考慮し組み合わせで展開したい。▶上演環境: (1)会場の広さ・形状: 7m×7m以上希望 (2)床: リノリウムがあった方が望ましいが、なくても対応可 (3)必要機材、舞台セット: 通常の照明・音響機材